

【第1回学術研究会】

認知症の人の口を支える基礎知識

～出来ない理由にしないために～

【抄 録】

8020達成者が2016年には5割を超え、継続的な口腔管理が必要不可欠であることは誰もが認識しているところです。その一方で、80歳以上になると認知症発症のリスクも急速に高まります。認知症が進行すると自立した口腔清掃が困難となり、う蝕や歯周病の発症リスクが上がります。さらには介護者などによる支援を受け入れることが困難になるケースも多く、口腔管理は一層困難となります。

歯科界は高齢期に自身の歯を多くの残すプロモーション（8020運動）を進めた以上、認知症を発症しても自身の歯さらには口の機能を守る責務があると考えます。

認知症の人を歯科としてどう支えるか、皆様方と考えるお時間を頂けましたら幸いです。

【日 時】

6月22日(木)19時00分～21時00分

【講 師】

平野 浩彦 氏

(東京都健康長寿医療センター

歯科口腔外科部長)



【配信方法】

Zoomウェビナーを用いたライブ配信

お申込み用QRコード →



保険で安心してきちんとした診療ができるようにしましょう

東京歯科保険医協会

Medical Association, Tokyo Dental Insurance